

自分たちが住むまちの魅力を30秒のCMでアピールする「第16回あきたふるさと手作りCM大賞（AAB秋田朝日放送主催）」で仙北市が奨励賞を受賞し、12月13日にCM制作実行委員の皆さんと出演者の市内の小学生たちが門脇市長に報告に訪れました。

このCMは、角館高校放送部を中心に若手異業種グループ畑楽（はたらく）の皆さんのサポートのもと制作され、「近未来地方創生特別会議」と題して、子どもたちが自分たちの住むまちの未来について話し合っているという内容です。

地域を彩る幻想的な光

武蔵野児童公園にイルミネーション



さまざまな色がきれいな光を放ち、冬の寒さによく映えます。

放送部部長の小林陽さん（2年生）は「このCMは大人を差し置いて子どもたちが発言しているの、これからは未来のある子どもたちの番だということが伝えられればと思う」と話しました。

受賞作品は今年11月末まで年間40本放送され、放送スケジュールは随時仙北市ホームページでお知らせします。

田沢湖生保内にある武蔵野児童公園にイルミネーションが灯され、地域の方々が訪れた人を楽しませています。これは、生保内地域運営体の活動の中で、地域の活性化と憩いの場を創出しようと武蔵野下四町内会が取り組んでいるもので、冬のイルミネーションは場所を変えながら今回で4回目、武蔵野児童公園では昨年に続き2回目の実施となります。

公園には、発光ダイオード（LED）電球が約1万個飾りつけられ、高さ約7メートルのツリーの形や光のトンネル、ネコやゾウなどの絵が浮かび上がり、辺りはさまざまな色の光に彩られています。

イルミネーションの点灯は、1月26日（土曜日）まで。点灯時間は、17時～21時30分。

角館総合病院で朝市開催！

大曲支援学校せんぼく校が野菜販売

12月18日、秋田県立大曲支援学校せんぼく校の生徒による野菜販売が市立角館総合病院の正面玄関付近で行われました。

この野菜は、同校の生徒たちが育てた野菜で、週2日の頻度で畑に通い、愛情を込めて育てた大根や長芋、菊芋です。長芋はきれいに掘り起こされ、野菜を優しく扱った姿が連想されました。販売開始から大勢の人で賑わい、あっという間に完売しました。

「朝市」の魅力は、生産者の顔を見て安心して購入できることや購入者の喜ぶ顔を見られることです。近年、このような機会は失われつつありますが、単なる野菜の販売だけではなく、生徒たちは、会話を通じて売る喜びを感じているようでした。



瞬く間に売り切れとなった野菜販売。次回が楽しみです。

角館冬がたり

国が定めてほっこり

かくのだて歴史案内人組合（田村雄幸組合長）が武家屋敷「岩橋家」で毎年開催している「角館冬がたり」。

この恒例行事は、かくのだて歴史案内人が観光客などを対象に、角館の歴史や冬の暮らしぶりなどを語る冬の風物詩です。

開催日には、多くの観光客が訪れ、囲炉裏を囲みながら、歴史案内人の話に耳を傾けていました。

冬がたりは3月31日まで開催中です。毎週金・土・日、祝日の午前11時30分、午後1時30分から約30分行われます。ぜひお立ち寄りください。



お問い合わせ先

■仙北市観光情報センター「角館駅前蔵」

電話 0187-54-2700 / FAX 0187-54-1755

■かくのだて歴史案内人組合

電話 0187-55-1670 / FAX 0187-55-5411

角館キッズ学びい教室



オタスケマンの指導のもと、子どもたちの勉強にも熱が入ります。

12月26日と28日に、18年目34回を迎えた「角館キッズ学びい教室」が角館交流センターで行われ、市内外の小・中学生71人が参加しました。

この教室は「楽しい学習オタスケマンの会（草薨稔会長）」が子どもたちの自学自習を支援しようと、毎年、夏・冬の長期休みに開催しているものです。

両日とも、市民や現職・退職した先生のオタスケマン25人と角館高校生によるフレッシュオタスケマン13人が子どもたちの質問に丁寧に答えるなど、地域力を活かしたこの教室は、親御さんからも感謝の言葉をたくさんいただいています。

共栄メディカル市に歩行器を無償貸与

12月17日、総合医療機器・介護福祉用品の販売やレンタルを手がける有限会社共栄メディカル（大仙市四ツ屋）が、高齢者や体の不自由な方にご利用いただきたいと、市に歩行器3台を無償貸与しました。



藤澤代表取締役（右）は「県内では仙北市が初めてです。引き続き、他の自治体にも提案していきたい。歩行器は年2回のメンテナンスも行います。ぜひ安心してご利用いただきたい」と話しました。

1泊2日で田沢湖地域を満喫しよう 生保内小児童が旅行企画を提案

12月18日、田沢湖総合開発センターで、生保内小学校の児童たちが考えた旅行企画の発表会が行われました。

当日は、6年生児童47人が8グループに分かれ、1泊2日の行程で田沢湖地域を満喫できる旅行企画を提案。独自のキャッチコピーを考え、冬の秋田駒ヶ岳での雪上車ツアーや農作業などの田舎体験、玉川温泉での岩盤浴など、地元の資源・素材を盛り込んだ魅力あふれるプランを紹介しました。

会場には、市議会議員や市職員など約50人が集まり、児童たちの素晴らしいアイデアに耳を傾けながら、プレゼンの完成度に感心していました。



アイデア満載の旅行企画を紹介する児童。



世界で1番優しいまちをめざして

小林 裕高



小林さん（左）と（株）ミライロの岸田ひろ実さん（右）。

突然ですが、皆さんは『ユニバーサルマナー』という言葉を知っていますか？

ユニバーサルマナーとは、障がい者や高齢の方、ベビーカーを押した乳幼児連れの方、訪日外国人や一見健康者と思われてしまいがちな目には見えな

い障がいを抱えている方などに対する『思いやりやいたわり』そして『おもてなし』のことです。

これを知識として学び、日常の暮らしの中で行動に活かせるようになるのが『ユニバーサルマナー検定』です。検定は準3級、3級、2級とあります。

岸田さんの講義のお話の中でこんな言葉があります。『ハードは変えられなくても、ハートは変えられる』。自分とは違う誰かのことを考えられるまち。困っている人がいたら、行動し助け合えるまち。みんなが安心して楽しく過ごせるまち。ハード（設備）はすぐに変えることができないかもしれない。けれど、自分たち1人ひとりのハート（向き合い方）は今すぐに変えることができます。観光のまちとして、日々多くのお客さまが仙北市を訪れていて、その数はこれからも増え続けていきます。もし今、目の前に困っている障がい者や高齢者、外国人、ベビーカーを押している方がいたら、どんな言葉をかけてあげられますか？

2019年もさまざまな取組でユニバーサルマナーを広めていく予定です。1人でも多くの市民の皆さんにこのユニバーサルマナーを学んでいただき、世界で1番優しいまちをめざしましょう。新幹線が走り、ドローンが飛び、四季折々の自然を楽しめ、日本文化にもふれることができ、旅行弱者にも優しい、最強のまちですね。

そんな取組を活動の1つとしている小林です。遅ればせながら明けましておめでとうございます。今年もどうぞよろしく願いいたします。

かけがえないいのち 街頭キャンペーン

12月1日は「いのちの日」（健康日本21による自殺予防運動の日）。この日にちなんで、傾聴ボランティアあだれ、仙北市社会福祉協議会職員、市職員が街頭キャンペーンを実施しました。

12月4日にグランマート田沢湖店、タカヤナギワンダーモール店、よねや角館店から協力をいただき、スタッフがおとちゃん眠れている？と印字されたトイレットペーパーやリーフレットを配布。買い物客などに心の健康と自殺予防を呼びかけました。



店頭で「いのちの大切さ」を呼びかけました。